広報『富士見』（毎月1日発行）は、市内の公共施設や駅などにも置いています。声の広報『富士見』（音声DAISY（デイジー）版）は市内図書館で貸し出しています（市ホームページで聴くこともできます）。







市長の事業者訪問

FACE to FACE 36

矢部 孝典さん（露地野菜栽培農家）

所在地／勝瀬

おおむね40歳までの市内農業者で組織される、富士見市農業青年会議所で、副会長を務める矢部孝典さんに、農業の魅力やこだわりについて伺いました。

地域に根差した農業経営を目指して

矢部さんは、勝瀬で、春と秋にはカブ、夏には辛味大根、冬はホウレンソウと、年間を通して数種類の野菜を露地栽培しており、訪問時には辛味大根を収穫し、出荷作業にあたられていました。就農したのは今から19年前で、小さいころから農作業に励む両親の姿を見て育ったことを振り返り「代々農家を続けているのでいずれ継ぐということは考えていた」と就農へのきっかけを教えてくれました。地域では、勝瀬小学校の生徒の農家訪問受け入れや、収穫したカブを年3回程度、市の学校給食センターへ出荷しているほか、地元の農産物を地元の皆さんに食べてもらうため、市役所本庁舎で月に一度開催される臨時農産物直売所「つきいち」にも積極的に参加し、地産地消の推進にも取り組んでいます。

この地でつないできた経験とこだわり

「露地栽培は、気象の影響が大きい。雨が降らなくても、降りすぎてもうまく育たず、また、ちょうど良いと豊作となるが、需要と供給のバランスが変わり、価格が下がることもあるため難しい」と露地栽培における農業経営の難しさを語る一方、限られた人手の中で、栽培品目をあえて絞り、作業の効率化を図るなど、代々培ってきたノウハウを生かしながら、農業と向き合ってきました。「消費者の皆さんに選んでもらえるよう、おいしさはもちろん、包装の仕方にも気を配り、丁寧に出荷作業を行うことを心掛けている」と普段から大切にしていることを教えてくれました。また、「中学2年生の息子が将来農業を継いでくれるのなら、一緒にがんばりたい」と農業経営の未来についても語ってくれました。

今回の訪問では、年間を通じて野菜を栽培するため、工夫を凝らしながら農業に取り組んでいることを知ることができ、安定的な農業経営の支援策を考える機会となりました。

■市公式ホームページ

■ SNS
LINE
Facebook
X(旧Twitter)
Instagram
YouTube

【カタログポケット】広報『富士見』を多言語で

【マチイロ】広報『富士見』をスマートフォンで

【テレ玉データ放送】テレ玉(地デジ3ch)視聴中にdボタンで市の情報を視聴

Fujimist募集

市内在住、富士見市出身の方などで活躍されている方を募集しています。自薦・他薦は問いません。

みんな笑顔☆ふじみ
富士見市
☎ 049-251-2711（代）
FAX 049-254-2000
〒354-8511
富士見市大字鶴馬1800-1

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
富士見市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

VEGETABLE OIL INK
R70
古紙パルプ配合率70%再生紙を使用
UD FONT by MORISAWA